

## 東海大学自然史博物館の新展示「静岡県の自然」

柴 正博



雑木林のジオラマ



里山の展示

東海大学自然史博物館では、博物館を訪れる多くの人に、また特に地域の小中高の学校教育の中で、地域の自然を学習し理解していただくために、昨年7月27日に1階の展示室に、新たに「静岡県の自然」という常設展示場を開設しました。

「静岡県の自然」の展示では、静岡県の自然のエッセンス、すなわち高い山々とその前面の里山から平野、そして海岸にかけての多様な自然の特徴を、自然の風景や標本とともにわかりやすく紹介しています。展示標本や写真の一部については、NPO 自然博ネットのみなさんに多大な協力をしていただき、ここに感謝します。

展示内容には、富士山の自然、南アルプスの自然、里山の自然、山から海へ、興津川と安倍川、静岡県の化石があります。

「富士山の自然」では、その生い立ちと自然を概説し、「南アルプスの自然」ではそこをつくる岩石とともに樹木、高山蝶の標本を展示しています。「里山の自然」では、コナラやクヌギの雑木林でツキノワグマとホンシュウジカが遭遇する風景を再現したジオラマと里山の風景のミニチュアのジオラマを設置し、蝶や甲虫、水棲昆虫の標本などを置き、里山のさまざまな自然について

解説してあります。里山には裏山に雑木林があり、農家のまわりには茶畑やみかん畑、そして池や沼、河川などの水湿地や水田も広がり、そこでは昆虫やカエル、魚や野鳥など多くの生きものが集まっています。里山は、昔からそこにすむ人々によって維持管理されてきた山林や田畑、水湿地などの自然環境のことをいいますが、今はその里山が多く場所で失われようとしています。

「山から海へ」では、急流河川の生きものや山がはぐくむ豊かな海など、さらに博物館のある三保海岸などの海岸の自然を紹介しています。「興津川と安倍川の石」では、静岡市の2つの川の川原や海岸の石に注目して、その石のちがいや秘密を解き明かしています。

最後の「静岡県の化石」では、静岡県の地層の分布や地層の見方、それと静岡県から発見される化石などについてたくさんの標本とともに紹介しています。

新たに「静岡県の自然」の展示の加わった東海大学自然史博物館に、ぜひみなさんお越しください。ここでは静岡県の自然のエッセンスを知ることができ、自然を見つめる新たな目が養えると思います。